

農業

令和8年9月号

会誌 No. 1747



目 次

巻頭言

ウナギ完全養殖……………佐々木昭博 3

論 壇

地球温暖化とアニマルウェルフェアへの対応……………本郷 秀毅 4

農業懇話会

調和を大切にした、おもしろい社会づくり……………井上 能孝 6
—株式会社ファーマンの取り組み—

寄 稿

アジアで売れる果実のトレンドと日本品種の動向……………別所 英男 21

農家の気持ち

7年先の未来を思い描きながら……………鷺尾 純代 37

農業・農村の現場から

うつりかわる「田んぼとくらし」……………荒 一能 38
—府中市郷土の森博物館開催の特別展を踏まえて—

世界の農業は今

ガストロノミーを活かした日仏連携による美食と健康のイノベーション
……………後藤 一寿 44

私の経営と志

地域農業を未来へつなぐ……………坂本 孝典 50
—空知型輪作と新たな挑戦で、持続可能な経営を目指す—

統計情報

2025（令和7）年農業物価指数.....	52
農政情報.....	53
大日本農会だより.....	54
編集部から.....	54

表紙写真説明：シリーズ農村の伝統祭事

にしや じんだいおどり 西祖谷の神代踊 (徳島県 三好市)

日本三大秘境の一つとも称される祖谷地方。この地に伝わる「西祖谷の神代踊」は、旧暦6月25日、西祖谷の善徳天満宮にて奉納される伝統的な踊りです。

古くは、美しい笠をかぶり、太鼓を叩いて踊ることから笠踊とも太鼓踊とも呼ばれていました。神代踊という名称が使われるようになったのは、1922（大正11）年に皇太子（のちの昭和天皇）が西祖谷に行啓された際、歓迎式典でこの踊りが披露された頃からと言われています。1976（昭和51）年には、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

善徳天満宮の祭神は菅原道真公であり、農業を生業としてきた祖谷地方の人々にとって、豊作を祈る雨乞い祈願は切実な願いでした。五穀豊穡^{ほうじよく}を願うこの踊りは、力強い太鼓の音と、独特の動きが特徴で、太鼓打ち、棒振り、踊り子など全部で14もの役があるため、多くの人手を必要とします。

20年ほど前には少子高齢化に伴い、担い手となる役者不足が深刻化し、存続の危機に直面しました。そこで立ち上がったのが地元小学校でした。地域に根差した「ふるさと学習」として神代踊の継承に取り組み、子どもたちが積極的に参加するようになりました。その結果、現在では昔ながらのにぎわいを取り戻し、毎年盛大に奉納されています。

神代踊は、祖谷の人々の信仰心と、地域が一体となって文化を守り伝える絆の象徴として、未来へと受け継がれています。

(写真：三好市 文：三好市教育委員会社会教育課 宮田 健一)